

滋賀×SDGs

滋賀県におけるSDGsの取組について

令和2年2月17日

滋 賀 県

- ・豊かさとは何か？ 幸せとは何か？
- ・今の生活は持続可能か？
- ・誰かを犠牲にしていないか？



『新しい豊かさ』を追求
～今だけ、モノだけ、自分だけではない～

「変わる滋賀 続く幸せ」
(滋賀県基本構想 2019～2030年度)



世界とのつながりの中で実践



なぜ、滋賀からSDGsなのか？



滋賀県にはSDGsに通じる思想・歴史・文化が息づいている

琵琶湖・山

～自然・生き物・下流域
のことを考える～



水のつながり

～歴史・文化・産業～

人のつながり

～思想・福祉・教育～

SDGs 未来都市に向けた滋賀県の思い

- 2017年1月
知事がSDGsを県政に取り込むことを宣言
(都道府県では全国初)
- 2019年7月
滋賀県がSDGs未来都市に決定

2017.6.1

国連のトーマス・ガス事務次長補来県



地球の健康 “しがCO₂ネットゼロ” を推進！！



・気候変動の影響により、滋賀県でも、自然生態系の変化、災害リスクの増加など、自然環境、社会、経済活動に大きな影響を与える恐れがあることから、持続可能な社会に向け“しがCO₂ネットゼロ”に向けた取組を推進



「しがCO₂ネットゼロ」ムーブメント」

キックオフ宣言

近年、気温の上昇、大雨の頻度の増加など、気候変動およびその影響が全国各地で現れている。昨年は、台風15号や19号など異常気象が相次ぎ、河川氾濫や大規模停電によって住民の生命や財産、そして自然生態系に多大な被害が発生した一年であった。

また、本県では、琵琶湖北湖の一部で全層循環が確認できないという観測史上初めての事態が生じるなど、農林水産業や自然生態系など様々な分野において気候変動の影響と考えられる現象が既に現れてきている。

今後、地球温暖化の進行に伴い、猛暑や豪雨のリスクは更に高まることが予測されており、世界は、気候変動という緊急の脅威に直面している。この脅威に対する世界全体での対応を定めた「パリ協定」の目標である世界の平均気温上昇を1.5℃に抑えるためには、世界の人為的なCO₂の排出量を2050年前後に実質ゼロにする必要がある。

本県は、琵琶湖や周囲の山々など豊かな自然環境に恵まれるとともに、グローバルなサプライチェーンの一翼を担う製造業の集積も進んでいる。また、「石けん運動」などの県民運動が展開されてきた歴史を持ち、全国に先駆けてSDGsを県政に取り込むことを宣言した、SDGs未来都市である。

このような本県だからこそ、環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環が実現する社会の構築に向け、今、将来世代のためにも行動を起こさなくてはならないと考える。

よって、本県は、2050年にCO₂排出量を実質ゼロにすることを目指して、県民や事業者等多様な主体と連携して取り組んでいくことをここに宣言する。

令和2年（2020年）1月6日

滋賀県知事

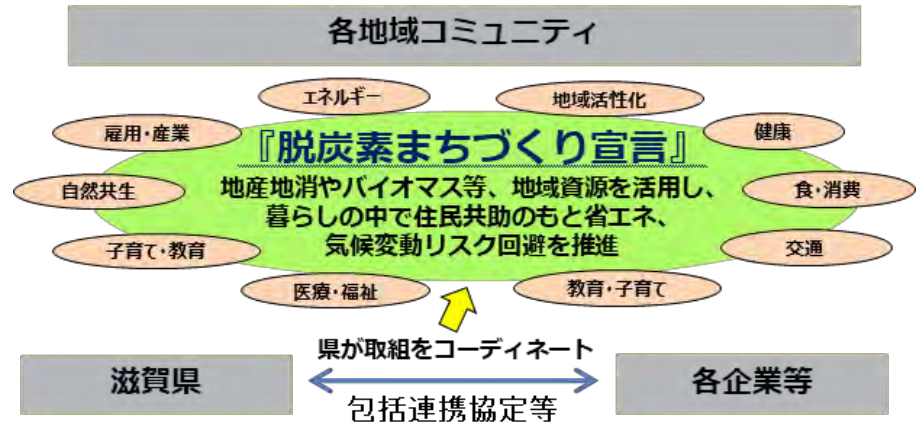
三木 浩

賛同登録用
QRコード



2020年1月6日
キックオフ宣言

- ・しがCO₂ネットゼロ推進事業
推進体制づくり、機運向上、施策の在り方検討
- ・脱炭素まちづくりの推進
企業と連携し、地域全体でのCO₂排出削減を推進



- ・気候変動適応策の検討
今後必要となる適応策の方向性等について検討

→ 2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ・
持続可能で活力あふれる循環共生社会の実現へ



滋賀県には琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継ぐための環境保全活動や、近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神などSDGsにつながる考え方が息づいている。

滋賀県は、県の政策にSDGsの視点を活用するとともに、経済界、大学等の多様なステークホルダーとのパートナーシップを拡大している。

滋賀県 人口 1,412,916人
面積 4,017.38 ㎢
平成27年10月1日現在(国勢調査)

滋賀×SDGs ワークショップ・実践交流

2018年10月26日から12月まで、持続可能な滋賀を考えるワークショップと実践交流会を大津、近江八幡、米原で開催した。高校生から80歳を超える幅広い年代の述べ100名の方々に参加をいただき、持続可能な滋賀を実現する「SDGs行動宣言」や、パートナーシップのあり方について

持続可能な滋賀を実現するSDGs行動宣言



シンポジウム 2017.6 「サステナブル滋賀×SDGs」

環境や貧困などの問題は一国では解決できない。みんなが豊かになるために、経済を持続可能な形で成長させ、富を分かち合おう。
今、世界が試されている。助けを必要としている人を取り残してはいけない。一人ひとりの皆さんの努力が、希望を生む。



国連のトーマス・ガス
事務次長補の基調講演より

シンポジウム 2018.4 「アリス・ウォータースさんに学ぶ 食・農・暮らしの持続可能な未来」

私達は健康や地球環境のために、食べ物の食べ方、買い方などに対する価値観を見直すべきであり、そのために子ども達に食を使った教育を行うことがもっとも重要だ。すでに滋賀ではその取組が始まっており、日本中、世界中のお手本になって欲しい。

アリス・ウォータース氏の基調講演より

※米国で、食を題材とする教育(エディブル・スクールヤード活動)や、スローフード運動に取り組んでいる。



エディブル・スクールヤード の取組に通じる活動 (農業体験学習「たんぼのこ」)



多くの公立小中学校では、児童生徒が、米や野菜などを育て、収穫し、食するという学習活動を通じて、自然・環境・いのち・地域・つながりの大切さなどを学んでいる。

環境 こだわり農業



農業、化学肥料を使用しないオーガニック農業など、琵琶湖の保全や生物多様性保全につながる持続可能な農業を推進している。

滋賀県立大学 SDGs宣言

滋賀県立大学では地域住民とともに、SDGs達成に向けた活動による人材育成や地域の持続的発展への貢献に取組んでいる。



遊べる 学べる 淡海子ども食堂

食事や遊び、学びを通じて子どもたちが地域の人とつながる共生の居場所「子ども食堂」の活動を支援している。



滋賀SDGs × イノベーションハブ



産官が連携し、社会的課題解決につながるイノベーションを創出するとともに、新たなビジネスモデルの発掘・構築を目指す。

県内 金融機関の取組

県との包括的連携協定の一環として、社会的課題解決に寄与する事業などに対し県内金融機関が積極的にサポートする新たな金融商品づくりに取り組んでいる。

滋賀銀行
「ニュービジネスサポート資金(SDGsプラン)」
「SDGs私募債『つながり』」

関西アーバン銀行
「びわこ・みらい活性化ファンド(FUNAZUSHIファンド)」
「全国版CSR私募債～SDGs推進ファンド～」

ぜひ参加してみませんか！ 「滋賀×SDGs交流会」

持続可能な社会に向け、社会のあり方を変革していくためには、パートナーシップが重要。SDGsで多様な人々がつながる場として「滋賀×SDGs交流会」を設立した。2018年11月に開催した第1回交流会には、企業、団体、学生、自治体等、様々な方が集った。皆さまの参加をお待ちしている。



世界の水環境の課題解決への貢献



・産官学民が連携しながら、水環境保全に向けて取り組んできた課題解決に向けたアプローチ『琵琶湖モデル』を、世界の水環境の課題解決にも活用

○琵琶湖の水環境保全（負荷削減） に向けた取組例と培われた経験



課題解決までのアプローチ

- ① 現状の把握と課題の抽出
(行政×研究機関)

住民へ
共有



●琵琶湖環境科学研究センター



●環境学習船うみのこ

- ② 住民啓発と環境学習
(行政)

世論へ
反映



●ヨシ群の保全活動



●せっけん運動

- ③ 環境保全活動の展開 (行政×住民)

世論に基づく
施策の展開

- ④ 条例の制定
制度設計／施策展開 (行政)

- 富栄養化防止条例 ●滋賀県公害防止条例
- 各認証制度 (環境こだわり農業等)
- 保全活動や保全施設への財政支援制度
- 琵琶湖総合保全整備計画
- エコツーリズムの推進 等

- ⑤ 水環境分野における技術開発・研究
(企業・研究機関)



- しが水環境ビジネス推進フォーラム
- 淡海環境プラザ

- ⑥ 家庭や工場からの負荷削減
(住民や企業[工場])



- ISO等による環境管理
- 自主検査
- 行政・企業・住民のネットワーク構築による環境改善

培った経験・ノウハウ

- ・モニタリング技術
- ・環境調査
- ・解析手法 等

- ・環境教育
- ・普及啓発 等

- ・住民との連携手法 等

- ・施策形成、制度設計、計画策定
- ・排水源への規制・監視 等

- ・技術・知識・情報の集積

- ・環境管理
- ・ネットワーク形成

○今後の取り組み 琵琶湖モデル・汚水処理技術の発信



【これまで】

【R 1 年度から】



**世界の水環境問題解決
（SDGsの達成）へ貢献**

滋賀SDGs×イノベーションハブ（しがハブ）



・滋賀の社会的課題をビジネスモデルで解決する「滋賀SDGs×イノベーションハブ（しがハブ）」を産官金の協働で運営し、21世紀にふさわしい新たなビジネスモデルの構築に取り組む。



平成30年10月開設



「滋賀SDGs×イノベーションハブ」の役割

- ①アウトサイド・イン（社会基点）のビジネスアプローチの実践をサポート
- ②SDGsに通じる社会的課題の解決と企業の強みを活かしたイノベーションをサポート
- ③SDGsの普及・人材育成・情報集積・交流・連携の場づくり

検索

しがハブ

・SDGs達成に向けた活動を通じた人材育成や地域の持続的発展への貢献に力を入れている大学と連携し、滋賀の未来をつくる担い手育成のためのフィールドをつくりだす。



滋賀県立大学
「キャンパスSDGs」

立命館大学
「SustainableWeek」



・県内市町や企業・団体等と連携して、SDGsの啓発および交流を行う場として、「滋賀×SDGs交流会」を設置し（平成30年11月）、最新の情報を学び、県内の取組を発信する場として積極的に活用



第1回 滋賀×SDGs交流会
平成30年11月21日（火）



第3回 滋賀×SDGs交流会
令和元年8月6日（火）

県内市町

ジェトロ

びわこビジター
ズビューロー

滋賀県社会
福祉協議会

SDGsでつなぐ

ツーリズムの
担い手

地域課題の
担い手

福祉の
担い手

次世代の
担い手

経済・社会・環境について、多角的な視点を持つ担い手の育成

企業

県内経済
団体

県立大学

立命館大学、
龍谷大学など

○「健康しが」共創会議

企業や大学、地域団体等との連携体制を構築

→県民の健康づくりに資する活動の創出を推進、機運醸成



○日本ケロッグ社

SDGs推進に向けた滋賀県との4つの取り組み

- (1) 健康寿命の延伸……………働き世代の朝食欠食改善および健康経営サポートプログラムの展開
- (2) 子どもの朝食欠食対策…夏の朝食欠食改善＋学習支援サポートプログラムの実施
- (3) 観光と健康……………「食」を通じた健康ツーリズムの拡大
- (4) 女性の社会進出支援……………県内女性管理職を対象とした女性キャリア支援セミナーの実施

